

第三章 11) クラビーニョス駅



クラビーニョス駅

*山下雪雄、福岡県京都郡伊良原村出身、1918年7月、博多丸で両親（久勝、フジエ）、伯母白河ハツと1歳半時に渡伯。クラビーニョスに配耕就労契約満期前に逃げ出て、ミナス州コンキスタで米作に従事。

1926年6月ラプラタ丸で一家（伯母も含む）で帰国。

1930年4月ブエノスアイレス丸で再渡航中、リオ到着2日前に母（フジエ）が急性肺炎で死亡水葬される。ズモン農場を購入後、子供達の教育問題で1951年から家族はリベイロン市に住居する。継母梅乃は加来三善氏の姪にあたる。（「モジアナの土に生きる」より）

*古川喜一、1913年、若狭丸、佐賀県藤津郡出身、クラビーニョスに配耕後転じてヴァルゼン・グランデにて有志とヴィニョ・カエテ醸造会社設立。（「ブラジル日系紳士録」295ページ）

*岡田猛夫、1913年10月、帝国丸、高知県高岡郡出身、クラビーニョスに入耕、後同耕地通訳。監督、海外興業に入社、オエステ各植民地開拓建設に従事、1957年ジャーレスに移転、同市開拓の草分け。（「ブラジル日系紳士録」700ページ）

*宮尾薫五、1917年6月、若狭丸、長野県更級郡篠井町出身、クラビーニョス入耕2農年就労後、コレゴリッコ駅付近で雑作従事、1935年パラナ州アンジラに移転。（「ブラジル日系紳士録」762ページ）

*古賀八郎、1918年9月、博多丸、佐賀県佐賀郡西川副村出身、パウリスタ本線デスカバード駅パーカ耕地に配耕、2週間の在耕でクラビーニョス駅ダス・フロレス耕地に移る。この耕地は臼井介仁が長らく通訳していた所である。一転して東京植民地に移った。それから数転後パラナ州トレスバラス移住地セボロン区に到着く。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」308ページ）

*小森辰蔵、1919年12月、滋賀県近江八幡市野村町出身、クラビーニョス駅ダース・フロレスタ耕地に配耕、

転じてイタコロミーの上塚植民地に入植(1923年)、第二上塚植民地時代、戦後の勝、負組で毎日なまぐさい時はまるで自分達が戦争に巻き込まれたようでした。(「海を渡った近江の人たち」260ページ)

*木村四郎、1923年5月、神奈川丸、福岡県北九州市八幡区出身、クラビーニョス入耕就労後、アララクワラ市内在住を経てパラナ州アサイに再移転、同市の草分け。(「ブラジル日系紳士録」792ページ)

*中江俊治、1925年、ハワイ丸、滋賀県蒲生郡丹木町出身、クラビーニョスに入耕、数ヶ所に転じながらアダマンチーナ市移転商業を営む。戦後の混乱で勝ち負けの対立があり邦人は不幸な時代を過ごした。(「ブラジル日系紳士録」584ページ)

*後藤清善、1930年4月、河内丸、宮城県宮城郡多賀城村出身、クラビーニョス駅カナン耕地に配耕、以後幾度も転じパラナ州トレスバラス移住地サン・ジョン区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」697ページ)

*阿彦興四郎、1930年7月、リオ・デ・ジャネイロ丸、山形県飽海郡北又村出身、同駅ジャンダイア耕地在住1ヶ月で耕主が代わり名義変更してクラビーニョス耕地になり、就労すること3ヶ年後、転じること数度を経てリオ・グランデ河畔で米作業に従事する。後年パラナ州トレスバラス移住地に入植。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」544ページ)

*新居繁雄、1930年8月、鎌倉丸、大阪市北花区出身、2農年就労、タクアリチンガで綿作り、ロンドリーナ市郊外コーヒー栽培後年マリंगा在住。(「ブラジル日系紳士録」831ページ)

*後藤稔、1930年4月、河内丸、宮城県宮城市出身、農業に就労、転じてチエテ移住地に於いても就労、後年パラナ州ジャタイジーニョ在住。(「ブラジル日系紳士録」793ページ)

*高橋正、1930年7月、若狭丸、宮城県志田郡出身、クラビーニョスで米作に従事、パラナ州トレスバラスで綿作、1941年バウルー郊外、バラコン植民地に移転する。(「ブラジル日系紳士録」462ページ)

*福田国松、1933年1月、ラブラタ丸、熊本県天草郡大道村出身、同駅シンボラス耕地で就労すること2ヶ年、さらに隣のダース・フロレス耕地でコーヒー歩合農として4ヶ年働く。後年サン・ジョゼ・ドス・カンポス市に移転する。(「熊本県人発展史」428ページ)

*立山二、1933年2月、プエノス・アイレス丸、熊本県山鹿市字坂田出身、兄秀雄氏の家族構成員、同駅カンタガー口耕地で義務農年終了後、モンテ・アルト郡に移り綿作に従事する。(「熊本県人発展史」902ページ)

*三浦義清、1933年3月、サントス丸、秋田県山本郡森岳村出身、クラビーニョス駅サント・アントニオ耕地に3ヶ年就労。後年パラナ州トレスバラス移住地ジャンガーダ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」665ページ)

*伊藤健作、1934年7月、マニラ丸、岐阜県土岐郡泉町出身、クラビーニョス駅付近に配耕され義務農年を遂行、二転後パラナ州トレスバラス移住地セードロ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」380ページ)

*松本通衛、1934年8月、モンテビデオ丸、福島県双葉郡葛尾村出身、クラビーニョスに入耕1農年就労、アランテス、パラナ州アサイ、経てパラナ州エスペランサにてコーヒー、雑作経営。
(「ブラジル日系紳士録」772ページ)

*首藤富蔵、1934年12月、マニラ丸、福岡県嘉穂郡庄内町出身、クラビーニョスに入耕、果樹、蔬菜栽培に従事、1958年リベイロン・プレート市に移転現在至る。(「ブラジル日系紳士録」)

*米田義則、1936年8月、リオ・デ・ジャネイロ丸、長崎県島原市出身、クラビーニョス配耕コーヒー園従事、後アンドラジーナ市郊外で米作を営む。(「ブラジル日系紳士録」519ページ)

*小林謙三、1936年10月、ラプラタ丸、東京都新宿区市ヶ谷加賀町出身、同駅サンタ・ルジア耕地で就労すること10ヶ月後、宮腰千葉多氏の世話でリオ・グランデ・ド・スール州サンタ・ローザ植民地へ船で3ヶ日間(サントス〜ポルト・アレグレ港)、汽車で目的地に向かうが手違いで、数日後サンタ・ローザ植民地に到着する。当時の支配人は富岡漸氏であった。(ニッケイ新聞概報記事第2482と2488号)

*室崎忠男、1936年11月、ラプラタ丸、同駅シンポラズ耕地で6ヶ月就労後、アララクワラ線ミラソール町付近で農事に従事する。(「ブラジル広島県人発展歴史」128ページ)

*松村重夫、1936年12月、滋賀県蒲生郡竜王町岩井出身、クラビーニョス駅サンタ・クルース耕地に配耕、義務農年終了後リベイロン・プレート市内の嶋崎旅館に就職、転じてマリリア駅オスカル・ブレッサ更生植民地で日語学校に勤める。戦中の日語禁止で学校も閉校、さらに転じ聖市郊外に移転。
(「海を渡った近江の人たち」288ページ)

*鈴木健一郎、1936年12月、アラビア丸、愛知県幡豆郡一色町出身、クラビーニョス駅サンタ・ルジア耕地で義務農年終了後、パウリスタ延長線に就労すること2ヶ年後、借地農を始める。自分の農地を求めてパラナ州トレスバラス移住地アモレーラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」367ページ)

*白島鶴雄、1937年9月、アフリカ丸、熊本県八代市出身、小山信一氏の構成家族で母親と共に渡伯、同駅トランスバール耕地で義務農年終了後、ジャルジノポリス郡の金水・稲田共営耕地で綿作の歩合農を3ヶ年従事する。パラナ州に農地を求めて落着く。(「熊本県人発展史」737ページ)

*京藤間勘輝、1941年8月 ブエノス・アイレス丸、東京都日本橋区出身、クラビーニョス入耕就労、聖市に移転以来京藤間流舞踊に普及発展に尽くす。(「ブラジル日系紳士録」215ページ)

・サンタ・フランシスカ耕地(チビリッサ駅)

*塩谷門太郎、1931年4月、ハワイ丸、北海道雨龍郡一巳村出身、同耕地で義務農年終了後、フランシスコ・マスミアノ駅ボア・ビスタ耕地で1年就労、数度転じてパラナ州トレスバラス移住地サン・ジョン区に落着く。
(「トレスバラス移住地開拓20周年史」696ページ)

*小阪康平、1934年10月、アリゾナ丸、北海道函館市新川町出身、同駅同耕地で1農年就労後、移転を繰り返してトレスバラス移住地ロゼーラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」650ページ)

・モリンガーバ耕地 (チビリサ駅)

*栗木真二郎、1913年8月、若狭丸、福岡県浮羽郡水別村出身、同耕地に大崎家族構成員として3ヶ年就労後、サンタ・オリンピア駅付近、サン・カーロス駅付近を経てグアタパラ耕地に就労した時は在伯9ヶ年、そしてグアタパラ耕地に在住すること9ヶ年、この時に同県同村出身の平島孫太郎氏息女マリエさんと結婚。後年パラナ州トレスバラス移住地タンボリン区に入植。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」618ページ)